



東京拘置所待合室（6月5日）

指揮する政治家／演奏する官僚

「法律」という楽譜

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

東京都荒川区南千住1-59-6-302

<http://sobanokai.my.coccan.jp/>

皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

ずっと外出を控え、来客もなく……私はNHK高校講座の番組を見聞きしながら過ごしていました。

その音楽の講座（第7回講師：沼野雄司）でクラシック音楽とは「楽譜の音楽」などと解説があり、ベートーベンの交響曲第5番「運命」の様々な指揮者による聴き比べをしました。そして、一つの楽譜からいろんな演奏を楽しむことができるのは、楽譜の不完全さ、あいまいさの故にさまざまなのです。なるほどなあと勉強になりました。「楽譜」に全てが書かれているわけではありません。どんなに音程やリズムが細かく記されていても、その解釈は指揮者に委ねられ、個々の楽器の微妙な音色や強弱は演奏家に任せられます。

「法律」の運用についても同じことがいえそうです。

☆☆☆

この「非常事態」に賭けマージャンに興じていたことが問題になり、黒川弘務東京高検検事長が辞職しました。さらに、彼への処分の内容や退職金の金額を巡って様々に議論されています。法律ではこうなっている、過去の事例ではこれが相場だ、任命責任はどう取るのか……等々。

「非常事態」の前から、政権による恣意的な、彼の定年延長措置や、それを追認するためのような法改正の動きが問題になっていました。そんな渦中の人物でありながら、マスコミ関係者と麻雀卓を囲むことに何の抵抗も警戒心も持たなかったのでしょうか。

権力者たちの奢りを感じずにはいられません。

☆☆☆

黒川氏は、民主党政権の時代には大臣官房審議官として法務大臣に仕え、もともとは死刑に反対だったはずの千葉景子法務大臣（当時）による死刑執行を導いた人物だったと言われます。

その後、千葉氏に乞われた黒川氏は、大臣官房付の肩書で「検察の在り方検討会議」の事務局として「検察の再生に向けて」と題する提言（2011年3月）をまとめたたりしています。

政治家を手なずけることに長けていると評される黒川氏は、マスコミ関係者にも同様に接していたのでしょうか。「賭けマージャン」も接待のうちだったのでしょうか。

☆☆☆

千葉氏の後任で法務大臣となった柳田稔氏は就任まもなくの「失言」により辞任しました。その失言というのは「法務大臣は二つ覚えておけばいい。『個別の事案についてはお答えを差し控えます』と『法と秩序に基づいて適切にやっている』だ」というものでした。この発言を問題にし、謝罪と撤回を強く求めていたのが、当時は野党だった自民党の河井克行氏（前法務大臣）です。河井氏も現在、公職選挙法違反（買収）の疑いで捜査されているのはご存じの通りです。こんな人たちが日本の「法律」を（利権と慣例に基づいて）運用しているのです。どんな名曲の譜面でも、指揮者や演奏家がこれでは、黙って耳を傾けてはいただけません。（じ）